

生命のにぎわい通信

第79号：令和8年(2026年)7月 発行

発行：千葉県環境生活部自然保護課
生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

(千葉県立中央博物館内)

TEL:043-265-3601 FAX:043-265-3615

URL:<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index>

E-mail:monitor@bdcchiba.jp

梅ヶ瀬溪谷の生き物たち

生命のにぎわい調査団では年に2回、現地研修会を開催しています。令和8年度の第1回は梅ヶ瀬溪谷。養老川の支流、梅ヶ瀬川の侵食により形成された美しい溪谷です。昨年(2025)の5月に実施予定でしたが、残念ながら雨天により中止となり、そのリベンジとして計画した今年(2026)5月24日の開催も、雨に降られて流れてしまいました。

梅ヶ瀬溪谷では、平成27年と30年に現地研修会を開催していますが、季節は秋と冬で、初夏に実施したことはまだありません。そこで今回は、現地で出会っていただいたかった梅ヶ瀬溪谷に棲む生き物の一部をご紹介します。(千葉県生物多様性センター 松坂 麻美)



タゴガエル



ムカシツチガエル



モリアオガエル



カジカガエル



スジエビ



ホトケドジョウ



キタスナヤツメ



オオトラフコガネ



ハンミョウ



スカシヒロバカゲロウ



ニホンカワトンボ



アオグロハシリグモ

最新の生物多様性に関する情報や各種講習会の情報は当センターと調査団のホームページをご覧ください

調査団:<https://www.bdcchiba.jp/monitor-index> 生物多様性センター:<https://www.bdcchiba.jp>



第2回 アユは千葉県にも生息しています

千葉県生物多様性センター 佐藤 哲也

私たちの身の回りには、さまざまな生き物が暮らしています。生き物たちには、その姿や生き方に個性があり、それぞれが関わりあって生命をつなげています。生き物を知ることはそのつながりを知ることでもあり、生命のにぎわいを守ることにもつながります。

ここでは、生物多様性センターの職員が生き物の話題をリレー形式でつづっていきます。

7月といえばアユが旬の季節です。アユ釣り解禁などのニュースが流れ、川に釣り人達が集まる光景を皆さんもみたことがあるかと思います。アユは「清流の女王」ともいわれ、釣って良し、食べて良しの魚として日本人に古くからなじみのある魚です。アユは塩焼きで食べるのが一般的ですが、私は天ぷらで食べるのが大好きです。フワフワな身がたまらないです。

意外と知られていないのですが、アユの寿命は1年です（希に2年生きる個体もあります）。12月頃に河川で孵化した稚魚は海に降り、しばらく海で生活します。春になると海から河川に遡上し、夏場には川底の石の表面にある付着藻類を食べて成長します。アユは口が櫛（くし）状になっているため、付着藻類を食べた際に痕（ハミ痕）が残ります。成長したアユは秋頃に産卵し生涯を終えます。

私は大学生のときに千葉県に生息するアユを対象に卒業研究を行っていました。周りの人からは「千葉県にアユっているの？」とよく言われました。千葉県にもアユは生息しています。養老川、小櫃川、湊川、夷隅川では遊漁権を購入して釣りや投網でアユを獲ることができます。都川などでも生息が確認されています。種苗放流している河川もありますが、天然のアユが遡上する河川もあります。千葉県の場合、ほとんどの河川でアユの生息が確認されていますが、河川改修が進み河川横断構造物（堰・ダム）が設置されたことにより、河川に遡上できなかつたり、産卵場となる浮石が集まった河床が少ない等の理由でアユが生活史を全うできる環境が少ない状況です。そんな中、富津市の湊川は天然のアユが遡上する数少ない河川として知られています。私は湊川に通り投網でアユを獲って体長や体重などを記録していました。アユは最大で30cmを越えるほど成長する個体もありますが、私が獲った最大のアユは全長20.5cmです。

アユは私たちにとって身近な魚ですが、その生態や千葉県内にも生息していることは意外と知られていないです。外来種や希少種が注目されがちですが、身近な生き物の観察もとても楽しいです。川で遊ぶ際には安全に十分注意し「生命のにぎわい」を感じてください。



ハミ痕



付着藻類を食べるアユ



2025年8月採集のアユ

<これからの季節に観察できる生き物>

○調査対象種：セミの仲間、ヒガシニホントカゲ、カワセミ、サワガニ、ヤマユリなど

○調査対象種以外

- *渡りのシギ・チドリ類、サシバなどの猛禽類
- *各種昆虫、両生類、爬虫類など
- *希少生物（生息地・生息数が減少している生物）、外来生物の報告も受け付けています。

調査対象種以外は種の確認が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

[みんなでつくろう！ちば外来水生植物マップ 2026]

ナガエツルノゲイトウ等の「外来水生植物」が県内で拡大中であり、生態系や農林水産業への被害が問題になっています。

これらの分布の最新情報を集めるために、スマートフォンアプリ「Biome（バイオーム）」を使用した調査「みんなでつくろう！ちば外来水生植物マップ 2026」を実施しています。実施期間は6月1日から11月30日です。

団員の皆さまのご協力をお願いします！

ダウンロードは
こちらから

いきものコレクションアプリ
Biome（バイオーム）

※無料・広告なし、別途通信費が必要です

